

**今日のトピック IMFの世界経済見通し（2016年4月）  
下方修正の相場への影響は限定的**

**ポイント1 今年の経済成長率は3.2%  
前回から0.2ポイント下方修正**

- 国際通貨基金（IMF）は4月12日、最新の世界経済見通しを発表しました。2016年の成長率は世界全体で前年比+3.2%と、前回1月時点の予測から0.2ポイント下方修正されました。
- 2017年は0.1ポイント下方修正の同+3.5%となり、世界経済の回復ペースは緩慢で、脆弱さが続くリスクが高まっているとの認識が示されました。

**ポイント2 来年は緩やかに回復へ  
ただし日本はマイナス成長に**

- 来年の成長率について、先進国・地域は今年の前年比+1.9%から+2.0%へ、同じく新興国・地域は同+4.1%から+4.6%へ、それぞれ緩やかに改善する見通しです。ただIMFは成長支援に構造、財政、金融の政策アプローチが必要としています。
- なお日本の成長率は2017年がマイナス0.1%と、主要国で唯一マイナス成長に陥る見通しです。ただこれは消費増税という特殊要因の影響を踏まえた予測値です。

**IMFの世界経済見通し（2016年4月）**

(単位：%)

	2016年		2017年	
	成長率	修正幅	成長率	修正幅
世界全体	3.2	▲ 0.2	3.5	▲ 0.1
先進国・地域	1.9	▲ 0.2	2.0	▲ 0.1
日本	0.5	▲ 0.5	▲ 0.1	▲ 0.4
米国	2.4	▲ 0.2	2.5	▲ 0.1
ユーロ圏	1.5	▲ 0.2	1.6	▲ 0.1
ドイツ	1.5	▲ 0.2	1.6	▲ 0.1
新興国・地域	4.1	▲ 0.2	4.6	▲ 0.1
中国	6.5	0.2	6.2	0.2
ASEAN	4.8	0.0	5.1	0.0
インド	7.5	0.0	7.5	0.0
ブラジル	▲ 3.8	▲ 0.3	0.0	0.0
ロシア	▲ 1.8	▲ 0.8	0.8	▲ 0.2
原油価格の変化率	▲ 31.6		17.9	

(注1) 上記のASEANはタイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムの5カ国。

(注2) インドは年度。

(注3) 修正幅は2016年1月の見通しからの変化幅。

(注4) 原油価格の変化率はブレント、ドバイ、WTIの平均価格の前年比。

(出所) IMFの発表を基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開 世界経済見通しの下方修正による相場への影響は限定的**

- IMFのラガルド専務理事が4月5日に世界の景気回復に対するリスクが増していると発言していたこともあり、金融市場では今回の下方修正は概ね事前に予想されていたと思われます。
- 見通しが発表された4月12日は原油の大幅高を受け、株高、円全面安のリスクオン（選好）相場となりました。そのため今回のIMF予測が相場に与えたマイナスの影響は限定的であったと考えられます。

**ここもチェック!** 2016年3月31日 世界の「投信マネー」3月の投信マネーは、新興国へ回帰  
2016年1月21日 IMFの世界経済見通し（2016年1月）世界経済はより緩やかな成長ペースへ

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。